PRESS RELEASE (2014/11/20)

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY
北海道大学総務企画部広報課
〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目
TEL 011-706-2610　FAX 011-706-2092
E-mail: kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
URL: http://www.hokudai.ac.jp

サステイナブルキャンパス国際シンポジウム 2014 の開催について（お知らせ）

開催趣旨： サステナビリティ・ウィークの一環として行われるサステイナブルキャンパス国際シンポジウムは 2011 年から始まり，今回で4回目を迎えます。

昨年のシンポジウムでは，「地域と連携したサステイナブルキャンパスの構築」をテーマに，大学キャンパスの役割を地域計画の中でどう位置づけるかが一貫して主題となり，特に，本学札幌キャンパスは，市街中心部において他との明解な境界を持つにも関わらず，市民や観光客との相互作用が起きやすい環境にあるとの指摘から，その“浸透膜”のような柔らかい境界を活かしたキャンパスづくりを目指すべきであるとの意見で議論が締めくくられました。

これを踏まえ，今回は「サステイナブルキャンパス構築のための思想と実践－大学にとって地域とは－」をテーマに，なぜサステイナブルキャンパスが必要なのか，諸外国において，大学の地域連携はサステイナブルキャンパス構築の文脈の中でどのように位置づけられているのか，といった思想的・実践的話題について講演を行います。さらにその後のパネルディスカッションでは，本学にとっての「地域」を想起しながら，地域連携のためにキャンパスがどのように活用されうるか，その可能性を議論します。

日程：平成 26 年 11 月 25 日（火）13 時～17 時 45 分（開場 12 時 30 分）

場所：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北８西５）

主催：北海道大学サステイナブルキャンパス推進本部，北海道大学施設部

参加費： 無料

言語： 日本語・英語（同時通訳あり）

プログラム：

(1) 開会挨拶
　13:00～13:05　北海道大学施設部長　矢部輝雄

(2) 来賓挨拶
　13:05～13:10　文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室長　森　政之

(3) 趣旨説明
　13:10～13:30　北海道大学工学研究院　准教授　小篠隆生

(4) 基調講演(40 分×２名)
　13:30～14:10　京都大学経済学研究科　教授　植田和弘
　14:10～14:50　ルクセンブルグ大学　教授　アリアネ・ケニッグ
　14:50～15:10　質疑応答

(5) 15:10～15:25　休憩（15 分）

(6) 15:25～17:40　パネルディスカッション（120 分＋休憩 15 分(16:25～16:40)）

- パネリスト:
  - 植田和弘（京都大学経済学研究科　教授）
  - アリアネ・ケニッグ（ルクセンブルグ大学　教授）
  - 森　政之（文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室長）
  - 生島典明（札幌市副市長）
  - 吉見　宏（北海道大学経済学研究科　教授，経済学研究科長）
  - 小篠隆生（北海道大学工学研究院　准教授）
- コーディネーター：小澤丈夫（北海道大学工学研究院　准教授）

(7) 閉会挨拶

17:40～17:45　北海道大学理事・副学長　三上　隆

基調講演者経歴

〇植田和弘(うえた　かずひろ)

京都大学大学院経済学研究科教授

環境経済学者。京都大学工学部卒業，大阪大学大学院修了。京都大学助手，同助教授，教授を経て，現在，京都大学大学院経済学研究科教授。2002－2012 年に同地球環境学堂教授を両任。経済学博士，工学博士。地球温暖化防止の環境経済戦略や持続可能な日本社会への環境・エネルギー政策を研究している。環境経済・政策学会会長(2006－2010)，President, East Asian Association of Environmental and Resource Economics (2010－2012)を歴任。『環境経済学』『廃棄物とリサイクルの経済学』など著書，論文多数。近著に，『緑のエネルギー原論』岩波書店(2013)。現在，調達価格等算定委員会委員長，総合資源エネルギー調査会基本政策分科会委員などを務めている。

〇Ariane König（アリアネ・ケニック）

ルクセンブルグ大学サステイナビリティデベロップメントセンター長

ドイツ・トーリア市出身。英国ケンブリッジ大学生化学学部卒。同大学にて生化学博士号取得。その後，米国ハーバード大学ケネディー行政スクール・ベルファー科学国際研究所・フェロー，英国オックスフォード大学サイードビジネススクール・ジェームスマーティン科学文化研究所・研究フェロー，ルクセンブルグ大学役員補佐を経て，現在ルクセンブルグ大学サステイナブルデベロップメントセンター長。また，ルクセンブルグ大学地理・空間計画研究所・上席研究員も兼任。持続可能性に向けたキャンパス運営や計画及び市民参加の実践を含めた教育・研究の統合をテーマとしている。現在，国際サステイナブルキャンパスネットワークのワーキンググループ3チェアマンも務めている。

お問い合わせ先

北海道大学施設部環境配慮促進課サステイナブルキャンパス推進本部担当

TEL：011-706-3660　　FAX：011-706-4884　　E-mail：osc@osc.hokudai.ac.jp

大学改革シンポジウム

サステイナブルキャンパス国際シンポジウム 2014

サステイナブルキャンパス構築のための思想と実践 ― 大学にとって「地域」とは ―

11.25 TUE

13:00 → 17:45

参加無料

会場
北海道大学学術交流会館 講堂
同時通訳有

お問い合わせ／Contact us ホームページ
http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/

参加申し込み URL
https://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/application/
QRコード ▶

主催
北海道大学サステイナブルキャンパス推進本部、
北海道大学施設部

共催
一般社団法人 国立大学協会

後援
北海道、札幌市、
一般社団法人 日本建築学会北海道支部

北海道大学　北海道大学サステナビリティウィーク　フェスタ 国立大学2014

ご案内
翌日26日(水)にサステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）年次大会を予定。

サステナビリティ・ウィークの一環として行われるサステイナブルキャンパス国際シンポジウムは2011年から始まり、今回で4回目を迎えます。
昨年のシンポジウムでは、「地域と連携したサステイナブルキャンパスの構築」をテーマに、大学キャンパスの役割を地域計画の中でどう位置づけるかが一貫して主題となり、特に本学札幌キャンパスは市街中心部において他との明解な境界を持つにも関わらず、市民、観光客との相互作用が起きやすい環境にあるとの指摘から、その“浸透膜”のような柔らかい境界を活かしたキャンパスづくりを目指すべきであるとの意見で議論が締めくくられました。
これを踏まえ、今回は「サステイナブルキャンパス構築のための思想と実践 ― 大学にとって地域とは ―」をテーマに、なぜサステイナブルキャンパスが必要なのか、諸外国において、大学の地域連携はサステイナブルキャンパス構築の文脈の中でどのように位置づけられているのか、といった思想的・実践的話題について講演を行います。さらにその後のパネルディスカッションでは、北大にとっての「地域」を想起しながら、地域連携のためにキャンパスがどのように活用されうるか、その可能性を議論します。

プログラム	司会：池上真紀（北海道大学サステイナブルキャンパス推進本部 コーディネーター）
12:30 – 13:00	受付
13:00 – 13:05	開会挨拶 矢部輝雄（北海道大学施設部長）
13:05 – 13:15	来賓挨拶 文部科学省
13:15 – 13:30	趣旨説明 小篠隆生（北海道大学工学研究院 准教授）
13:30 – 14:10	基調講演 植田和弘（京都大学経済学研究科 教授）
14:10 – 14:50	基調講演 アリアネ・ケニッグ（ルクセンブルク大学 教授、サステイナブルデベロップメントセンター長）
14:50 – 15:10	質疑応答
15:10 – 15:25	休憩
15:25 – 17:40	パネルディスカッション ●パネリスト 上記講演者 森 政之（文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室長） 生島典明（札幌市 副市長） 吉見 宏（北海道大学経済学研究科 教授、経済学研究科長） 小篠隆生（北海道大学工学研究院 准教授） ●コーディネーター 小澤丈夫（北海道大学工学研究院 准教授）
17:40 – 17:45	閉会挨拶 三上 隆（北海道大学理事・副学長）
18:15 – 20:00	レセプション 会場：ファカルティハウス「エンレイソウ」

基調講演 ゲストスピーカー

うえた かずひろ
植田和弘
（京都大学経済学研究科 教授）

環境経済学者。京都大学工学部卒業、大阪大学大学院修了。京都大学助手、同助教授、教授を経て、現在、京都大学大学院経済学研究科教授。2002－2012年に同地球環境学堂教授を兼任。経済学博士、工学博士。地球温暖化防止の環境経済戦略や持続可能な日本社会への環境・エネルギー政策を研究している。環境経済・政策学会会長（2006－2010）、President, East Asian Association of Environmental and Resource Economics（2010－2012）、を歴任。『環境経済学』『廃棄物とリサイクルの経済学』など著書、論文多数。近著に、『緑のエネルギー原論』岩波書店（2013）、現在、調達価格等算定委員会委員長、総合資源エネルギー調査会基本政策分科会委員などをつとめている。

アリアネ・ケニック
（ルクセンブルグ大学 教授、
サステイナブルデベロップメントセンター長）

ドイツ・トーリア市出身。英国ケンブリッジ大学生化学学部卒。同大学にて生化学博士号取得。その後、米国ハーバード大学ケネディー行政スクール・ベルファー科学国際研究所・フェロー、英国オックスフォード大学サイードビジネススクール・ジェームスマーティン科学文化研究所・研究フェロー、ルクセンブルグ大学役員補佐を経て、現在ルクセンブルグ大学サステイナブルデベロップメントセンター長。また、ルクセンブルグ大学地理・空間計画研究所・上席研究員も兼任。持続可能性に向けたキャンパス運営や計画及び市民参加の実践を含めた教育・研究の統合をテーマとしている。近著に「Regenerative sustainable development of universities and cities: the role of living laboratories」。現在、国際サステイナブルキャンパスネットワークのワーキンググループ3チェアマンもつとめている。